

地球生まれ、地球育ち



富士見丘中学高等学校

「国際性豊かな若き淑女の育成」。

この教育目標の下、追求してきた富士見丘の“グローバル”は半端がない。

例えば、イスラム文化と石油情勢に触れさせるアラブ首長国連邦（UAE）との交流。

例えば、歌舞伎鑑賞。

例えば、近隣商店街と協働し生ゴミからたい肥を作るサステナビリティプログラム。

そして、長年の取り組みと今後のプランが評価され、今年度、文部科学省よりスーパーグローバルハイスクールアソシエイトに選定された。

今後は、大学研究室との連携や外部コンテストへの出場など学びの場をさらに広げる。



書道部の落合紗那さんは「書の甲子園」で入選



松原茉莉さん(高2)も作品「つねむころ」で全国学生美術展に佳作入選



苫米地雪香さん(高3) 作品「この先へ」



中学1年生の帰国生英語取り出し授業では、アメリカのネイティブが使用するテキストを用いて授業を展開。「楽しいです」と樋渡洋子さん



Extensive Readingでは、読後にオンラインで本の内容に関するクイズに答える。合格し、ポイントがたまるとネイティブよりお手製のプレゼントが!

「普通に学校で生活していたら、それほど多くの外国の方と接する機会ってないですよ」。多くの学校の生徒から聞く言葉だ。そんなときにも、私の頭にはある学校が思い浮かぶ。

その学校、富士見丘はここ一年で、UAE、タイ、アメリカ、オーストラリア、イギリスなどといった国から客人を迎え、交流を図った。私たち書道部は、海外からのお客を前にパフォーマンスを披露することがあります。「素晴らしい」とみなさんに感動していただけて、とてもうれしい。日本人であれ、海外の方であれ、こちらの気持ちを同じように受け止めてもらえる。だから、これからも分け隔てなく接することができたらと思います(落合紗那さん・高2)。

また、迎えるだけでなく外に出ていく選択肢も多様に用意。姉妹校との3カ月/6カ月交換留学、海外大学への指定校推薦制度、中学でのオーストラリア修学旅行に加え、今年度からは高校の修学旅行先もアメリカに変更する。「英語が苦手なんですけどよく話してみたくて、イギリス・UAE短期留学に参加しました。最初は全然話せなくて、言葉って大事なんだと実感しました」と苫米地雪香さん(高3)。

美術部に所属している彼女は、イギリスでの体験をモチーフに絵画「この先へ」を制作、全国学生美術展で佳作入選を果たした。

考える。発信する。認める。そこから始まる

グローバル社会において、多様性に対するスタンスは大事だと思います。自らの価値観を振り回すのではなく、いろいろな人がいて、いろいろな考え方があると理解し、彼らと協働することで面白いものが生み出せるという経験を持たせたい」と大島規男教頭は話す。「それには、まずお互いに意見を言ったり、聞いたりすることが面白いと思えない」と。そこで、ベースとなる英語力の到達目標を「自分の意見を主張できる」水準と定めた。具体的には、CEFR(セファール)のコミュニケーション能力別レベルを示す国際標準規格のB2レベル。まずは音読中心で、英語を話すことへの抵抗感をなくすることが大切です」と英語科の貞末穂教諭。「苦手だと思っ込んでいる生徒、おとなしい生徒、いろいろですが、勇気を持って発言できるように、時にマンツーマン指導で自信をつけさせます」。

覚えなければならぬ文法も、一方的に教え込むのではなく、生徒の思考から真理にたどり着く富士見丘スタイルで、「なんでだろう?」生徒に問うと、思いついたことをそれぞれ口にします。時にそれがいいひらめきで、私には考えつかないようなことも。答えにノーと言わず、ああ、そう考えたのかとクラス全員が受け止める。

発言すること、オピニオンを持つこと、考えること。合っているか間違っているかよりも、参加する。他の教科もですが、それを重視しています。主体的にやらないと意味がないですし、グローバル化が進む社会で正解のない問題に直面したときにより良い道を見出す力となります。中3、高1では週に1時間、Extensive Readingに取り組み、自分のレベルに合った英語原書を辞書を使わずに読む。読むスピードが速くなった「日本語に置き換えずに読むようになった」「続きが気になって、電車の中で読むことも」「図書室で原書を手取るようになった」。生徒たちも手ごたえを感じている。また、英語の授業は異文化理解の場。DVDや歌を用い、認識を深める。さらに、土曜日に行う独自の取り組み「Flex 5x2」での特別講座では、英語を言語学の側面からとらえる講座、国語と「コラボレーション」した講座などを開催。生徒たちの多様な興味関心に応える。卒業生は「富士見丘の授業を体験したから、大学の授業が退屈で」とほやく。

「授業や行事を通じて、友達とは何でもいい合える仲間になりました」と松原茉莉さん(高2)。落合さんは「海外の方を含め、いろいろな人とふれあう機会が多いので、人見知り克服できたかな。対話からつながる。その輪が世界に広がる。その原体験を胸に社会へ飛び立つ」。



UAEアジュマーン首長国の皇子アブドゥルアジズ殿下と



貞末教諭の英語の授業